

困窮要介護単身高齢者地域生活安定事業成果物

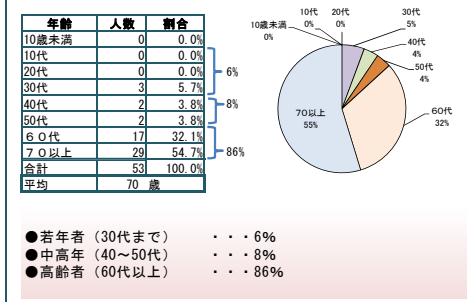
事業内容

「疾病・障害を抱えた低所得単身高齢者が自治体外の施設に転出し、また社会的に孤立しているという現状に対して、低所得単身高齢者が安心・安定した地域生活を継続できる地域の基盤整備を行うこと」を目的に、「新宿区内の低所得単身高齢者を対象として、訪問による日常生活支援・相談（24時間365日体制）および医療・福祉・介護等関係機関との連携、そして緊急ショートステイを行うサポートセンター活動、および孤立を予防する種々のプログラムと居場所の提供」を行っています。

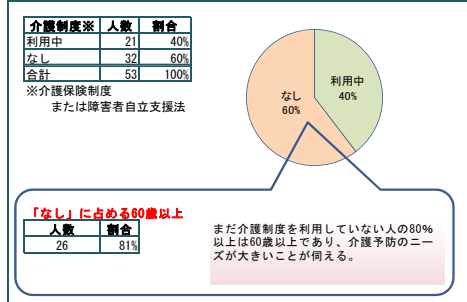
また、イベントを通じた互助作りや、孤立した生活困窮者の生活支援として相談機能を備えた居場所空間を提供する「まちカフェふるさと」を設置し、地域互助を育てていくまちづくりをしています。

利用者数

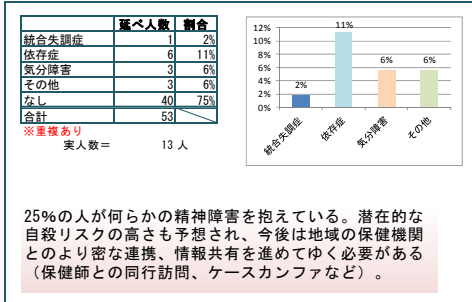
年齢構成



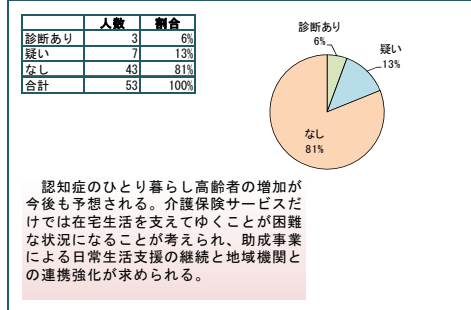
要介護



精神障害（分類別）



認知症



* 意義

- ・安定した地域生活を継続的に支援することで、単身高齢者の孤立防止を行う。
- ・孤立した生活困窮者を発見し、本人のニーズに合わせた支援を行うための総合相談窓口を設置し、多種類の社会資源を紹介するためのネットワーク作り。
- ・生活支援を通じて地域互助を育てていくまちづくりを行う。

◆ 地域の問題解決モデル

○訪問事業

80代男性について

CWから相談を受け、ふるさとの会の自立援助ホームへの入所と訪問利用を打診される。訪問を行う中で職員の顔と名前を憶えていただき、今の生活についての思いを少しずつお聞きする。また、近所の方々から普段の様子などを教えていただく。居室で使用しているストーブにより、掛布団が焦げ火災のリスクが見られたことを、職員が発見しCWに連絡する。その後、足の痛みによりトイレにいけない状態になる等、体の変化を訴え始めたため、介護認定を入れることになる。

⇒訪問時に在宅環境をきちんと見ていた為、火災のリスクに事前に気づけた。本人との連絡などをきちんと行っていた為、必要なニーズが何であるのかをきちんと話し合うことが出来、迅速に介護サービスを導入することもできた。

がんを抱える独居高齢者の支援 60代男性について

CWを交えて顔合わせ。がん全摘出の為失声。筆談は可能。簡易旅館にて生活しているが空気が悪く患部に悪いため、早くアパートに出たいと本人の希望がある。その後転宅するも体調の変化を訴えたため、病院にて検査する。CWやCMとその後の支援を話し合うが、本人が病院を変え、通院を希望したため、ふるさとの会職員が通院同行を行う。話し相手がほしいとの意見が本人から上がり、ふるさとの会利用者で同じ咽喉がん手術を受けた方と会うためのセッティングを行う。

⇒本人のニーズに寄り添った支援を行えた。今後は同じような病気を抱える人との継続的な交流を求めている。

独居高齢者の支援 90代男性について

ふるさとの会職員が出勤途中にうずくまっているのを発見。自宅アパートまで送り届け、夕刻に安否訪問したところトイレにて座り込み動けなくなっているところを発見。本人のお話を聞くと、自宅での生活が難しい様子。役所に相談しシェルターへの緊急入所を行う。その後、カンファレンスを行い足のむくみや立ち上がり困難な状態を確認し、CMより緊急入院を手配する。診断結果後脱水と発熱が認められる。退院後は歩行が完全に回復。毎日散歩している様子。

⇒状態把握を早期に発見できたため、高齢にも関わらず回復した。現在は転宅支援を行い、継続的に支援するために任意後見人の選出も検討中。

高齢者の独居支援と住み替え支援 80代女性について

生保CWより連絡があり見守り訪問相談を依頼される。その後ふるさとの会職員が通院同行や見守り支援を行っていくが、低血糖で倒れ、病院に搬送され入院する。退院後は施設へ入所し、介護サービスの組み直しやデイサービスの利用を開始するも認知傾向が見られ始めた。

⇒入院後早めに施設入所が決まったため、認知症状の発見も早く、対策がきちんと取れ始めたため、本人も施設入所して、安心されている。

60代男性について

CWより訪問依頼。視覚障害の手帳を取得してもらい、サービス導入（入浴介助、ヘルパー）。方針としては、外出し人とかかわる機会を持つこと、夏場の熱中症対策をすること。夜にコンビニまでの買い物時に転倒し、手をけがする。ご本人としては歩く練習として一人で外出されている。その後イベントへ参加したり、訪問等を行っていくうちに生活が昼夜逆転している様子を見受ける。何度か訪問するも、一か月会えないという状況続くが、複数の職員が、本人がお酒を購入されているところを目撃しており、生活状況が心配になる。近所の方よりもいつも心配しているというお話を聞き、最近の様子などを聞いていく。

⇒近所の方のお話を聞いたときに、ふるさとの会の職員が訪問していない間のお話を聞くことが出来、本人の在宅生活と周りの環境とのネットワークを構築していくことも大切であるがあるという事がわかった。

イベント内容 ※別紙イベント活動写真参照

- ・誕生会：毎月誕生月の利用者と他の利用者でお祝いをする。
実施回数…8回 参加人数合計…60人
- ・講習会：インフルエンザの予防や認知症のことなどについて学ぶ。
実施回数…5回 参加人数合計…43人
- ・お楽しみイベント：鍋会やお花見など、利用者の方に楽しんでいただくイベントです。
実施回数…6回 参加人数合計…50人
- ・地域リハビリ：遠出に出かけて、体を動かすなどをして、リハビリをする。
実施回数…4回 参加人数合計…36人

このような事業に今後期待される役割

- ・社会的孤立の防止
(認知症の早期発見/非生活保護受給者の支援)
- ・回復期の在宅生活を支える
(家族介護の負担軽減/制度の隙間に落とさない)
- ・雇用創出
(生活保護の手前の支援/受給者の就労支援)

地域力再生（互助）

認知症になっても、がんになっても、障害があっても、家族やお金がなくても、孤立せず 最期まで暮らせる地域社会へ

課題

今後は行政・地域包括支援センター・社会福祉協議会等の地域社会資源と更なる連携を深め、自管内（新宿区）で安心・安定した在宅生活を送ることが出来るような支援の実績を残す活動をしていきたい。